

男女共同参画推進センター 機関誌

京からあすへ Vol.2

2023年3月29日発行

発行 京都大学男女共同参画推進センター
〒606-8303 京都市左京区吉田橋町
TEL 075-753-2437
E-mail w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
URL <https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

制作協力 京都通信社
デザイン 中曽根デザイン



KYOTO UNIVERSITY



京からあすへ

京大からひろがる
色とりどりの未来

2023
March
Vol. 2

京都大学男女共同参画推進センター

02 特集
鮮やかで立体的な
京都大学と出会う旅

08 未来に贈るきらめくバトン
研究者インタビュー
成木 恵(理学研究科)
井上恵美子(白眉センター)
井貫恵利子(京都大学「医学領域」産学連携推進機構)

14 みちみちて一歩
卒業生インタビュー
堀内怜実
道場月音
富田一葉

20 この瞬間も旅の途中
在学生インタビュー
山田千聖

22 わたしの味方、わたしの見方

対話するから
見えてくる

鮮やかで立体的な 京都大学

と出会う旅

私たちの人生に訪れるさまざまな分かれ道。とりわけ大学入学は、大きな岐路の一つです。これまでの積み重ねが試される入学試験、高校とは違う授業スタイル、地元を離れての一人暮らし……。挑戦や変化に不安はつきものです。スマートフォンやパンフレットからでも情報は得られますが、先輩たちは京都大学でなにを考えながら過ごしているのか、どんなことに悩んできたのか、実感をともなった「生の声」があれば、大学生活の夢はもっと鮮明に描けるはず。男女共同参画推進センターが関わるイベントを紹介します。

教えて! 京大生

高校生が知りたい・聞きたいこと

入学時に進みたい研究分野を決めるべき?

どんなアルバイトをしている?

どんな参考書で勉強していた?

卒業研究のテーマはどのように決めた? 研究室配属ってどんな感じ?

部活とサークルは違うの?

大学院への進学と就職活動、どちらを選ぶ?

総合人間学部ではなにが学べるの? 工学部と理学部、農学部の違いは?

留学したいけど、どんな制度があるの?

受験勉強で後悔していることは?

友だちがつくれるか不安……

大学の課題はむずかしい?

学部や学科を選ぶ決め手は?

京都大学はどんな人が多い?

保護者からも… /

受験直前、保護者にできるサポートは?

入試直前の心境は?

京都大学や大学生生活の雰囲気を知りたい
教員、京大生から話を聞きたい
保護者の方

京都大学と出会う旅
その1
女子高生
車座フォーラム

高校の先輩に会ってみたい
身近な先輩の受験体験記を聞きたい

京都大学と出会う旅
その2
女子高生
応援大使

「答えのない」課題に挑戦したい・考えたい
他校の学生と交流したい

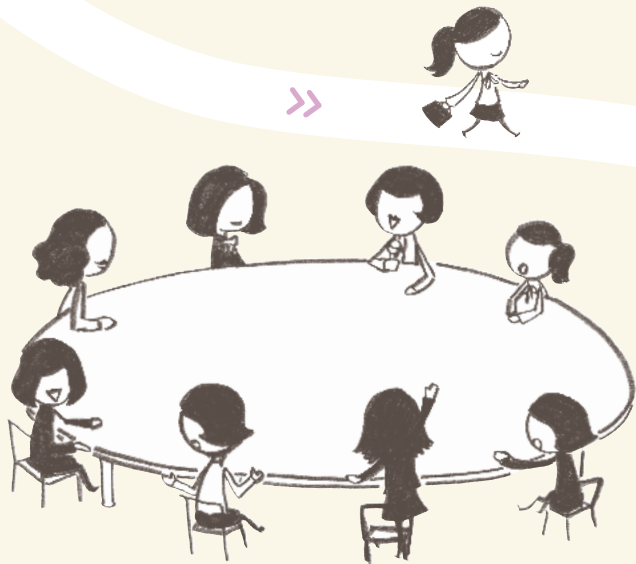
京都大学と出会う旅
その3
日経STEAM
2022 シンポジウム

＼ 疑問を直接にぶつけよう！ ＼

女子高生車座フォーラム

大学での学び 学生生活 受験体験記 卒業後の進路
京大生に質問 教員に質問 体験型 実地開催

「車座」とは、人びとが輪になって座ること。上座や下座がないので、双方向の議論が生まれやすい対話方式です。「車座フォーラム」もその名のとおり、研究者と在学生、高校生とが一つのテーブルを囲みます。リラックスした雰囲気だからこそ、本音を交えた「生の声」に出会えます。 *2020年からオンライン開催



2022年10月23日(日)
オンライン形式

大学入試の勉強方法や入学後の学生生活、研究の魅力と苦労など、大学進学を控える高校生の率直な疑問に答えようとはじまった車座フォーラム。2022年で17回目を迎えます。

●プログラム

京都大学の卒業生からのメッセージ

グループワーク「車座になって話そう」

高校生 ● 講師・京大生とのグループワーク

希望する学部ごとに分かれてのグループワーク。一つのテーマについて各学部の学問アプローチにそって議論したり、高校生からの質問に答えたり。直接に質問を投げかけられるチャンスです！

保護者 ● 京大生との交流

入試の説明

●参加理由

京都大学の雰囲気を体験したい
大学の教員や先輩と語りあいたい
将来の進路を考えるきっかけにしたい
研究者の仕事について知りたい
大学で学べることについて知りたい



＼ 保護者からも... ＼

京都大学にかぎらず、大学入試全体について保護者が知るべき情報をたくさん知れました。

女性支援のプロジェクトなどもたくさんあり、安心しました。

参加した高校生の声

自由に質問ができる雰囲気で、教員も学生も気軽に答えてくださり、遠い存在だった京都大学をぐっと身近に感じられました。

学生生活や卒業後の進路など、入学後の自分の姿も考えられるきっかけになりました。

自分が京都大学で過ごすイメージをもっと鮮明に描けるようになりました。受験勉強にも身が入ります！

現役京大生が語る各学部の印象や特徴は、説得力があってとても参考になりました。志望学部を絞るきっかけになりました。

＼ 先輩がやってくる！ ＼

女子高生応援大使

大学での学び 学生生活 受験体験記 卒業後の進路
京大生に質問 教員に質問 体験型 実地開催



京大生が「応援大使」として母校を訪問し、後輩に京大の魅力や、京都での大学生生活、受験時の勉強方法などを伝える「女子高生応援大使」。2018年にスタートし、現在はWeb会議システムをとって実施しています。

●2022年度の実施校数

17校(公立15校、私立2校)

受験を1年後に控えた高校生にとって、なにより不安なのは、「京大生」というスタート地点に立てるかどうか。勉強方法はもろろんのこと、メンタル面の維持の仕方など、受験生だったときをふり返りながら、高校生に寄り添ったアドバイスを伝える。目の前の受験勉強に追われがちだからこそ、積極的に外に出たり、非日常な経験をして、考えるきっかけをつくる必要性を説く学生も。



「応援大使」の声

京大生だからこそ肌で感じているふだんの京大の雰囲気を、具体例などを交えて伝えました。

「応援大使」への応募校は、近畿圏外の高校が9割。関西圏以外で暮らす高校生にとって、「京都の大学生」は遠い存在。「不安だった当時を思い出しながら、ありのままの自分の学生生活を伝えるようにしました」。

「答えのない」課題に挑戦 /
日経STEAM
2022 シンポジウム

大学での学び 学生生活 受験体験記 卒業後の進路
京大生に質問 教員に質問 体験型 実地開催

日本経済新聞社大阪本社が主催し、産学が連携して取り組む体験型シンポジウム「日経STEAM 2022」。STEAMは、科学 (Science)・技術 (Technology)・工学 (Engineering)・芸術 (Art)・数学 (Mathematics) の英単語の頭文字をあわせた造語です。理数教育に創造系教育をくわえ、現代の社会課題を解決する方法を語り合います。みずから問いを見つけ、追究する学問にふれられる機会です。



上 / 「女性研究者座談会」には、iPS細胞研究所の小田裕香子准教授が登壇。第一線で活躍する研究者の目線で会場からの質問に答えた右 / 京都大学のブースを設置。京大の学部や入試について、高校生からの相談に対応



●プログラム

| | |
|------------------|--|
| 学生サミット | 国内外の高校生、大学生チームが、自分たちで環境・資源問題の課題を設定し、「未来の地球を守る方法」を発表・提案します。斬新な発想が飛び交いました。 |
| 高校生SDGsポスターセッション | SDGsの達成にむけた活動や研究をポスター形式で紹介します。 |
| 女性研究者座談会 | 11大学の女性研究者が集い、会場からの質問に答えます。チャットツールを用いて、会場からはたくさんの質問が寄せられました。 |
| 体験コーナー | 企業・大学研究室の最先端の機材を体験できます。 |
| ワークショップ | 体験や対話をとおして、ふだんとは異なる物事の見方、考え方を伝えます。 |

京都大学たちばな賞
(優秀女性研究者賞)

学術研究の将来を担う優れた女性研究者の育成などに貢献することを目的に、2008年度に創設。人文・社会科学または自然科学の分野において、優れた研究成果をあげた若手の女性研究者を顕彰します。



2022年度のたちばな賞(優秀女性研究者賞)は、学生・研究者それぞれの部門から各1名、優秀女性研究者奨励賞は学生2名、研究者1名が受賞

女子高生応援ムービー

男女共同参画推進センターのウェブサイトでは、卒業生からのメッセージを動画で掲載しています。

<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/rooting/movie/>



さまざまな業界で活躍する卒業生が、自身の学生生活をふり振り返りながら高校生にメッセージを届けます。いま、なにに熱中しているのか、現在のお仕事についてもお話しできます。京大入学ははじめの一步。卒業後の未来についても、思いをはせてみてください。



中高生たちの応援

片岡 直子 KATAOKA NAOKO
accenture

村上 育 MURAKAMI YU
京都府立総合技術学院 工学部 工学系 工学系 工学系

持田 真歩 MOCHIDA MAHO
株式会社 株式会社 株式会社

橋 夏 TACHIBANA SUMIRE
株式会社 株式会社 株式会社

サイエンスの醍醐味は実験にあり。 ミクロの粒子から宇宙誕生の謎に迫る

成木 恵

理学研究科 准教授



なるきめぐみ

京都大学理学部を卒業。京都大学大学院理学研究科博士後期課程を修了。理化学研究所 基礎科学特別研究員、高エネルギー加速器研究機構 助教をへて、2013年から現職。

宇宙はどこからきて、どこへゆくのか。この壮大なスケールの謎を解明する鍵の一つが、ミクロの世界の粒子です。私たちの体をはじめ、身のまわりの物質を細分化してゆくと、分子や原子、クォークなどの素粒子にたどり着きます。ここまではわかっているのですが、素粒子がどのように組み合わせり物質ができてくるのかは未解明。体重計に乗れば、質量の存在は実感できますが、その質量がどのように生まれているのかはわからないのです。

質量誕生にのこされた 99パーセントの謎を追う

2012年、スイスの大型ハドロン衝突型加速器がヒッグス粒子という素粒子の存在を実証しました。宇宙の誕生直後、粒子は光速で移動していて、質量はありません。宇宙が膨張する過程でヒッグス粒子が充満し、粒子が抵抗を受けることで質量が生まれ、物質の生成につながります。

でも、ヒッグス粒子のみで説明できるのは、質量の世界の約1パーセント。目の前にあるこの机が10キログラムだとすると、たった100グラム、卵2個ぶんぐらいのことです。私たちはのこされた99パーセントのメカニズムをあきらかにしたい。それは、誕生から現在、そしてこの先までつづく宇宙の軌跡を知る試みでもあるのです。

実験に没頭した大学院時代

物理が好きで、京都大学理学部に入学。入学後は数学のおもしろさに目覚め、数学の授業ばかり受講しました。3回生で専門を選ぶ段になって、「一生、つづけていくな……」と考えたとき、物理が好きだった初心を思い出しました。理論の美しさを追究する数学とは違い、物理は実体ある自然が相手。ものの道理を追究する学問ですから、いくら理論が完璧でも現実がそうでなければ仕方がない。そこにおもしろさを感じたこと、さらに、もしも研究がいきづまっても、実体のあるものが相手なら道が見えてくる気がしたのです。

いまにつながるテーマをはじめたのは大学院に進んでから。これという理由はわかりませんが、「なにがあってもこれをやりきる」と夢中で研究をしていました。よい結果が

得られたことにくわえ、博士論文を書くということはその道の第一線の研究者として認められるということ。「この分野ならだれにも負けない」と博士論文を書いて実感できたことが研究をつづける原動力になりました。

いまはふたたび、大学院で取り組んだテーマに挑んでいます。実験装置が進歩し、この冬にはこれまでにない新しいデータが得られます。どんな世界が見られるのかワクワクは尽きません。

実験はトライ・アンド・エラーがあつてこそ

京都大学への着任にともない、夫と子どもと離れ、2013年から単身赴任をしています。子どもの通う保育園探しに苦労しましたし、新たに京都で保育園を探すのも容易でなかったのが理由です。さいわい、実験では茨城県にあるJ-PARCのハドロン実験施設を使っています。自宅からも近く、実験時には自宅から施設に通えるのも決断を後押ししました。平日の育児を担う夫はもちろん、研究チームや周囲の理解の深さに助けられています。

大学院生のころ、恩師に言われたのは、「オールラウンダーになれ」。オーケストラの指揮者のように、一つの分野を率いるには、どれか一つだけではなく、ひととおりの経験しておくことが肝心です。「たいへんだ」と思



J-PARCのハドロン実験の装置の前で
(写真提供: J-PARCセンター)

うかもしれませんが、自分で選んだテーマに必要なことに一つひとつ取り組んでいけば、おのずと身につくものです。

恩師の言葉どおり、テーマ選びから装置の開発、実験、分析、発表までの一連の流れに楽しさを感じていますが、私は根っからの「実験好き」。仲間と集まって「物理をやめるか、実験をやめるかどっちを選ぶ?」と聞くと、だいたい半数に分かれるのですが、私は絶対に実験派。どんな実験も、1回で成功することはありません。失敗して、その原因を確かめ、ふたたび挑戦する。このプロセスこそ、サイエンスそのものだと感じます。トライ・アンド・エラーあつてこそ。まずは勉強でも課外活動でも遊びでも、好きなことを見つけてほしい。あとはおそれず挑戦するのみです。

回り道もむだじゃない。歩んだキャリアを強みに変えて「持続可能な発展」に貢献

井上恵美子

白眉センター 特定准教授



いのうえ・えみこ

オックスフォード大学大学院修了、京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了、博士(経済学)。日本学術振興会特別研究員DC2。京都大学大学院経済学研究科講師をへて、現在、京都大学白眉センター／経済学研究科特定准教授。環境省中央環境審議会専門委員。

地球環境の保全と経済社会の発展について考える環境経済学が私の専門です。この学問分野に大きな影響を与えているのが、1980年代に生まれた「持続可能な発展(Sustainable Development)」という考え方です。それまでは、環境保全と経済発展とは、トレードオフの関係にあると考えられてきました。しかし「持続可能な発展」の概念が打ち出したのは、環境保全と経済発展の両立なくして今後の社会の発展は実現できないということ。この考え方に出会った私は強い衝撃を受け、その実現のための方策を環境経済学の視点から真剣に考えるようになり、それが現在の研究にもつながっています。

社会のために動く「経済」の考え方に共感

経済学部に進学したきっかけは、「経世済民」という中国の古典の言葉。「世を^{おさ}ね、民を^{すく}済う」を意味し、「経済」という言葉はこの

略語です。私が思うに経済は根幹。経済活動が成り立たなければ、国の未来や自身の将来を考えたり、暮らしの環境を整えたりといった生産的な活動はむずかしくなります。「経世済民」という言葉から発展した経済学は、暮らしを改善し、人びとがよりよく生きるにはどうしたらいいのかを考えるもの。社会のための学問であることが魅力でした。

大学卒業後は、環境負荷の大きいインフラの整備に関わり、実社会において「持続可能性」がどう捉えられているのかを知りたい、「持続可能な発展」に貢献したいという思いから、企業に就職しました。運よく希望通り、高速鉄道の開発に携わることができ、多くのプロジェクトに関わりました。中国の高速鉄道プロジェクトもその一つで、日本コンソーシアムの一員として参画しました。

働くなかで感じたのは、利益の追求と環境保全とのバランスのむずかしさ。予想はしていたものの、いかに大企業であっても「持続可能な発展」を実現させることは容易ではないことを実感しました。そして、その限界を乗り越える方策を探るために、もう一度学問として学びなおしたいと、アカデミアの世界にもどる決意をしました。

好奇心に導かれ、ふたたび飛び込んだアカデミアの世界

進学したオックスフォード大学では、知の探究の刺激をぞんぶんに受けました。これを一生の仕事にできたら幸せだと、研究者として歩む覚悟を決めました。海外でひきつづき研究する選択肢もありましたが、日本の環境政策に携わっておられた恩師のもとで、研究に没頭しました。京大の研究環境は私にとっても合いました。研究テーマを主体的に決定できるぶん、時間配分や進捗管理などにも自律が求められますが、この自学自習の環境で学びを深めることができました。また困難があっても、熱意をもって努力しつづけていけば、道が開けると実感できる環境でした。

学術研究の世界への挑戦に迷いはありませんでしたが、論文など研究成果が出なければ認められないシビアな世界です。教員として、子育てをしながらの研究は一苦勞。同じく研究者である夫と育児や家事を分担してのりきっていますが、ときには寝不足のあまり研究がままならなくなったこともありました。そのようなときに、育児休業の制度についてお願いをしたことがあります。従来の制度では、出産や育児を考える研究者は白眉研究者への応募を躊躇する可能性が

あるのではないかと感じていました。私の世代には間に合わずとも、次世代に道が開かれるのならという思いのお願いでしたが、すばやく整備いただき、ありがたいことに私にも新制度が適用されました。京大にはこのような懐の深さがあり、感謝しています。

計画書のない人生を楽しむ

ふり返ると、どのような経験もいまの研究に活かしています。私がいま力を注ぐ研究は、持続可能な社会の実現に向けて、近年のCOP(国連気候変動枠組条約締約国会議)でも気候変動を緩和する方策として注目されている企業のイノベーションをどうしたらより創出できるか、そのメカニズムを解明すること。膨大なデータを定量的に分析して客観的事実を明らかにする過程では、企業がどう考えて動くのかを実際に見てきたからこそ気づく視点がおおいに役だっています。これからも実社会とつながりを持ち、社会への貢献を重視する研究者でいたいと思います。

学生たちと話していて気になるのは、最短距離で人生設計しようとする人が散見されること。人生はなかなか計画書どおりにはゆかないもの。さまざまな経験を積んで、予想外の人生を楽しんでください。



ドイツ、フライブルク市の風力発電
カーボンニュートラル実現に向けて再生可能エネルギー関連のイノベーションは重要な役割を果たしています

人生は紆余曲折の連続。 思いもよらない選択が進路を拓く

井貫恵利子

京都大学「医学領域」産学連携推進機構 特定助教



いぬき・えりこ

京都大学薬学部を卒業。京都大学大学院薬学研究科博士後期課程を修了。独立行政法人 医薬品医療機器総合機構、国立研究開発法人 日本医療研究開発機構をへて、2020年から現職。

京都大学に進学するまで、ずいぶん遠回りをしました。中高と私立の一貫校ですが、そのまま大学に内部進学するはずが、高校3年生の秋に急遽、両親からまさかの「反対」。外の世界を経験してほしいという親心だったようですが、当時の私は「センター試験」の存在すら知りませんでしたので……。1年間猛勉強して国立大学に合格しました。

五里霧中の大学生活をへて

そうして、大学生活がはじまると、これまで流れるままに生きてきた私の胸にはじめて、「私のしたいことってなんだろう」という問いが浮かんできたのです。すくなくとも、「いま学んでいるこれではないぞ」と。1年で退学して翌年に、京大薬学部に入りました。とはいえ、薬学を選んだのも、得意科目が理系であること、手に職がつけられるからという安易な理由。なにも見えない水中を泳いでいるような20代前半でした。

修士・博士課程への進学は、「せっかく入学したからには博士号がほしい」という無邪気な気持ちから。現実には甘くなく、4回生で研究室に配属されてからの6年間は、体力面、精神面、学力面のどれもギリギリ。とにかく周囲についていくのに必死でした。苦労した記憶ばかりですが、岐路に直面したときに「私ならなんとかなる」と思える図太さは、この時期を乗り越えたからこそ身についたのでしょうか。

研究するからにはもちろん、「病気を治す薬を創りたい」と思っていました。しかし、研究が深まるにつれて、創薬までの道のり、そして患者さんとの距離の遠さに不安を感じるようになりまして。そんな私の迷いを察してか、当時の指導教官が紹介して下さったのが医薬品医療機器総合機構(PMDA)。医薬品の審査や市販後の安全性の検証に携わることも、創薬において重要な仕事だと知りました。企業と医療現場、国民との架け橋となるPMDAの仕事は、私の創薬への想いに一つの解答を与えてくれたのです。

仕事と育児との両立に悩んだことも

研究者の夫とは京大の入学式で出会い、大学院修了時に結婚しました。就職後関東ですごし、夫の転職に合わせて2017年に京

都にもどりました。夫が単身赴任をする選択肢もあったでしょうが、夫婦ともに関西出身ですし、幼子2人を抱えた私は関西への転職一択。当時の上司が親身になって諸所へ掛け合ってください、大阪の関連組織へ出向できました。出向直後は、京都から大阪へ毎日通勤するだけで精一杯。仕事に慣れない時期なのに、急な保育園のお迎えで早退したり、子どもの入院で休暇をとったり、職場に迷惑ばかり……。いまでこそ夫も協力的ですが、当時はこのやるせなさを理解してくれず、怒り心頭(笑)。3年の出向期間をへてようやく先を考えはじめた私に、当時の上司が紹介して下さったのがいまの仕事です。

メディカルイノベーション大学院プログラムは、最先端の医学知識と研究力を身につけ、さらには成果の社会実装までを担える人材、社会をよりよく変革するための結果を出せるイノベーターの育成をめざしています。おもな対象は、医学研究科と薬学研究科の大学院生。医学研究科の学生は、大学卒業後に医師として経験を積んだあと、現場で見つけた課題を解決すべく大学院に進学する人が多いようです。「医師になる」というゴールに到達したあと、道すじのない人生に直面して自信をなくし、病院以外の場所で自分にできることを探す学生もいます。私の経験もふまえながら、そうした学生の指針と

なる知恵や情報を提供できればと日々、業務に励んでいます。

若いうちは360度、すべてを試してみればいい

数年先の自分がどこでなにをしているのかはわかりません。いまは子どもが第一。夫の転属があれば夫についてゆく選択をすると思います。だからこそ、どんな場所でも自分を見失わず、みずからの足で立てるように価値観や考え方の軸をたもつことを強く意識しています。

学生時代には、教育に関わる仕事をするなんて想像していませんでしたが、とても楽しい。40歳を迎えたいまからでも、新しいことにはぜひ挑戦していきたいです。若いうちはなおさらで、360度すべての選択肢を試すくらいでいいし、試して困ったら助けを求めたらいい。自分一人で人生を切り拓ける人はごく一部。私もいまここにいるのは、要所所で周囲の人たちが助けてくださったおかげです。

選択を迫られる場面で頼りになるのは、信頼できる人間関係と選択肢の数。小中高と同じような境遇の人に囲まれてきた私の道を拓いてくれたのは、生まれや育ちのまったく違う個性豊かな人たちに出会えた京大での日々でした。ぜひ「おいでやす」と伝えたいです。



望遠鏡をのぞいて 見つけた大きな夢。 技術を極め、 宇宙業界を けん引したい

堀内怜実さん

三菱電機株式会社 情報技術総合研究所
兵庫県 神戸女学院高等学部 出身
理学部 卒業、理学研究科修士課程 修了

高校時代はバレーボール部で、練習漬けの毎日でした。数学と理科科目が得意でしたが、学びたいことは霧の中。導いてくれたのは、京都大学理学部のアドミッションポリシーにある「緩やかな専門化」のことばでした。京大理学部には数学、物理学、地学、化学、生物に関する5つの専攻がありますが、1、2回生ではすべての分野をまんべんなく学び、2回生の終わりに専門分野を選択します。このカリキュラムが私にぴったりだと思ったのです。

太陽とともに寝て起きる観測生活

大学の数学は自分にはすこしとつきにくく、生物と地学は高校時代に選択していなかった。「物理系か化学系かな」と入学直後からぼんやりと頭にありました。授業をとおしてしだいに物理学に引き寄せられるなか、決め手は、はるか彼方にある天体の活動を追う学問、宇宙物理学と出会ったこと。地上からは点にしか見えない天体が、いまこの瞬間も活発に活動していて、望遠鏡をつかえばこの目で現象を見ることができる。これほどスケールが大きく、ダイナミックな研究分野があるんだとワクワクしました。

なかでも、太陽の活動現象を解明する太陽物理学に興味をもち、本格的に研究がはじまる4回生からは、岐阜県高山市にある飛騨天文台での太陽観測に熱中しました。太陽観測が難儀なのは、雨や曇りの日には観測できないこと。京都からはるばる時間をかけて向かって、1日、2日の滞在では晴れ間に出会えないことも多い。ほかの授業がない年末年始や夏休み、ゴールデンウィークをつかって1週間ほど天文台にこもるのです。

観測相手は自然現象です。ようやく晴れて観測ができて、とくにおもしろい現象が起こらないこともある(笑)。そんな日や、天候がすぐれない日は気持ちを切り替えて、データ解析や観測装置の開発に没頭しました。ふだんは夜型の生活を送っていた私ですが、

観測期間だけは規則正しい朝型生活になる(笑)。大学時代のいい思い出です。

夢は大きく、 いつか宇宙業界をけん引したい

大学時代の研究は、なにかに役だてたいというよりも、みずからの好奇心の赴くままという姿勢の強いものでした。就職活動にあたって考えたのは、これまでとは違う新しいことに挑戦するチャンスだということ。「人の役にたちたい」という新たな思いを軸に据えました。もう一つは「ワクワクしたい」ということ。私がいちばんワクワクを感じられる宇宙技術の分野に携わりたいと、いまの会社に入社を決めました。

三菱電機株式会社は家電から宇宙開発まで、幅広い事業を展開しています。宇宙事業において、人工衛星の開発は欠かせません。用途はさまざまですが、太陽活動を観測する「ひので」など、大学時代の研究と関わりの深い衛星も当社が開発している衛星の一つです。私が携わっているのは、人工衛星が取得するデータの信号処理や、画像処理のアルゴリズムの開発。まだまだ勉強の最中で、これからの数年間は戦える武器が身につくよう精進の日々です。宇宙技術は、あらゆる技術の最先端。第一線に関わっていることは仕事をするうえでの誇りです。いずれは宇宙業界をけん引する役割を担いたいと夢を描いています。

ワクワクを探すには、「私はなにをしてい

れば楽しいのか」を知ることが重要です。学部はどうするか、専攻はどうするかなど、受験時は迷いがちですが、大学は入ってしまえば、あんがいどんなことも勉強できる場所です。物理学といっても、理論物理学、実験物理学と細分化されますし、さらには物理化学、生物物理学など、他分野と混ざる学問分野もある。迷ったままでもいい。あなたの興味が、進むべき道を教えてくれるはずですよ。



京都大学の飛騨天文台から見た初日の出

column 休日の過ごし方

最近、ゴルフをはじめました！

イメージどおりに打てたときの爽快感はたまりません。年代問わずいっしょに楽しめるのも魅力の一つで、友人や、職場の上司・同僚と楽しんでいます。



挫折の先に見つけた 私らしい生き方。 「オタク」を武器に 独立・起業

道場月音さん

株式会社 Hamaru Strategy

兵庫県 神戸女学院高等学部 出身
経済学部 卒業

京都大学をめざしたのは、アメリカンフットボール部があるから。アメフトがテーマの漫画『アイシールド21』に憧れたのです。

でも、志望した経済学部は、第2次試験で数学が必須。私の数学の偏差値は、英語と国語に比べて50は低かった(笑)。苦手意識もあり、いくら勉強しても理解できずに諦めていたところ、「論文試験」の存在を知りました。日本語と英語の評論文を読み、論述で解答する試験で、合格者は25人の狭き門。数学から逃げた後ろめたさを感じつつも、なりふりかまっていられないと挑戦を決めました。

大学時代に経験した挫折

入学後は、念願のアメフト部にマネジメントスタッフとして入部。協賛企業を募った

り、活動資金を得るためのグッズをつくったりと忙しい毎日でした。やりがいにはありましたが、高校までは女子校だった反動もあって「男社会」になじめず、2回生の終わりに退部。部活以外の大学生活もうまくいかず、精神的な疲れから体調を崩してしまいました。

その結果、卒業には5年かかり、思い描いた大学生活とはなりませんでしたが、この機会に自分を見つめ直そうと、新たなコミュニティとの関わりを増やしました。そして、女性のライフキャリアを考えるイベントの主催することになりました。5人のメンバーと手弁当の運営でしたが、有名企業の経営者やキャリア・プランナーを招き、100人以上を集客しました。大学生活を悔いなくふり返ることができるのは、このイベントの成功があったからです。

ふり返って見つけた強み

いまでこそ起業して「好き」に一直線ですが、最初の就職の動機は将来福祉系の事業を立ち上げたいという思い。そのために社内起業が可能なベンチャー企業に入社しました。しかし、支援の必要な人へ手をさしのべることと、自分が恵まれた暮らしをしていることとの折り合いがつけられない私の性格では、福祉の仕事はできないと気づきました。

ふり返ると、自信のなさの裏返しか、これまでの私は「だれ

かのために」を考えつづけてきた。でも、まずは好きなことをやりきって、自分自身に満足してはじめて、見えてくることがあるかもと気持ちを切り替えたのです。

そうして、軸にしたのが「オタク」である自分。漫画やイラスト制作に携わる企業に転職し、ともに起業することになる清水和幸さんと出会いました。新規事業の企画立案を担当しましたが、清水さんと組むと社外のビジネスコンテストの通過率がとても高かったんです。年齢や経歴はまったく違いますが、スキルの凹凸が合致した感覚でした。そして、会社の事業変更などをきっかけに独立し、2020年に株式会社 Hamaru Strategy を設立しました。

私たちが力を入れるのは、アニメや漫画などのエンタメを取り込んだ新規の事業創出のコンサルタントです。依頼者はエンタメ業界に限らず多種多様で、各企業の性格や予算、目的に合わせて、事業のアイデアを提案します。

私の肩書きはCOO、「チーフ・オタク・オフィサー」です(笑)。近年、オタク向けの事



業や企画は多いのですが、オタクは手を抜いた企画をすぐに見抜きます。「愛をもち、愛に甘えない」が信条で、「オタクはこれでもこぶだろう」という甘えは厳禁。オタクとしてのプライドを胸に、全身全霊でぶつかっています。起

会社員時代に挑戦したコンテストの受賞式

業して3年がたち、これからが勝負所。オタクとしての力が問われる場面が多く、ワクワクしています。

自分らしく 力を発揮できる場所を見つける

「京大生だからキャリアウーマンをめざしたいでしょ」、「起業家は仕事命」、「上場しなきゃ」などの先入観を押し付けられると、抵抗感や疑問を覚えます。そうした期待に応えようとして、がんばって疲れてしまう人も見てきました。上をめざす人だけが起業していいなんてことは決してないはず。仕事の前に暮らしや家族、趣味があるような、私みたいな人が起業してもいいし、そういう価値観でも仕事で力を発揮できると伝えられる存在になりたいです。

視野を広げようと焦らなくても、新しい場所にいけばおのずと視野は広がります。考えすぎず、いましかできない経験を味わってください。

column 私のこだわり

高校時代は、英語でミュージカルをしたり、生徒会、ボランティア活動など、どんなことにも全力でした。舞台上で話すことが好きで、いまでもプレゼンは特技の一つ。オタク表現の微細なニュアンスを年配の方にわかるように例えてみたり、工夫して相手に伝えることが好きみたいです。



いちど決めたら一直線! 熱意がひらいた 教育の最前線での 日々

富田一葉さん

文部科学省

福井県 藤島高等学校 出身
教育学部 卒業

教師の両親の影響か、中学生のころから学校教育への関心が高かったです。「なぜ、いまのカリキュラムがつくられたのだろう」、「学校の先生になりたいけれど、どういう先生がよい先生なのだろう」、「どうして?」を考えることが好きで、高校では先生を相手に、学校教育やカリキュラムに関する疑問をよく投げかけていました。いま思うとかなり漠然とした問いばかりで、付き合ってくれた先生には感謝しかないのですが、そのなかで、「京都大学なら、こうした内容を自由に議論できる環境があるよ」と先生に教えていただいたのです。

教育学部の教育内容を調べると、私の興味にぴったり。「ならば、京大に行くしかない」と、そこからはまっしぐら。もう京大に

入ることしか考えられなくて、片道2時間の通学時間をいかして受験勉強に励みました。

多様な人たちの 声にふれた大学時代

大学入学後も一貫して、興味・関心の中心にあったのは「教育」。でも、そのときどきの心に浮かぶ疑問に導かれ、テーマは移り変わりました。とくに掘り下げて考えたのは、いわゆる多数派ではないとされる人たちに教育がどう関わるのかということ。発達障害をもつ子どもたちが通う「放課後等デイサービス」でアルバイトをしたり、非行少年の更生保護の活動にボランティアとして関わったり、たくさんの経験を積みました。学業面でも、長崎県の離島にある小学校でのフィールドワークや、外国人学校と行政との関係についての研究など、関心があることにはつぎつぎに手を出していった学生時代でした。



旅行が好きで長期休暇ではよく海外に行っていました

そうした経験のどれもが、いまの私にしっかりと根づいています。文部科学省での仕事は、国や社会の動きをつねに意識することが必要です。一方で、私たちの仕事の先に現場があり、社会を構成する個人がいること、そしてそのなかには私が出会ってきたような多様な人たちがいる。このことは、いまも強く意識しますし、忘れないようにと心に留めています。

充実感にあふれた 憧れの職場での毎日

大学入試と同様に、就職活動でも目標に向かって一直線でした(笑)。文科省は、日本の教育施策の舵をとる最前線。この場所で力を発揮したいと、文科省職員の方にお話を訊いたり、みずからの教育への思いと向きあってとことん言葉にしたり、「かならず内定をつかみとる!」と自身を鼓舞し、人一倍の熱量で就職活動に臨みました。

憧れの場所に入省して2年がたちますが、いまはとにかく経験を蓄えている最中。文科省の所轄は教育だけでなく、科学技術やスポーツ・文化の振興など多様です。現在は、科学技術施策に携わる部署に所属し、国会対応や予算獲得に向けた総合調整などを担当しています。まだまだ聞き慣れない用語も多いのですが、新しい知識にふれるワクワクで日々、充実しています。私たちの仕事はよくもわるくも世間から注目され、動きがあればすぐにニュースや新聞記事で報道され

ます。責任も感じますが、一方で最前線の議論に接することができるやりがいはいは大きいです。

教育施策のさきに見つめる 理想の社会

教育の魅力は、個人の内面を伸ばして育てるという役割にとどまらず、それが社会をつくることにもつながること。科学技術、スポーツ、文化どの分野でもそうですが、施策の先にどんな社会や未来を望むのかというビジョンを描くことも重要です。その過程に正解はなく、議論を重ねながら黒か白かではない「グレー」をめざす営みだと私は考えています。

私がめざすのは、だれもが自分らしく生きられる社会。大学時代に出会った多様な人たちもふくめて、どんな人でもみずから人生を選択し、成長できる社会になってほしい。私にできることを考えながら、これからも邁進したいです。

column 休日の過ごし方

忙しい日々だからこそ健康第一。土曜日は英気を養うことに徹しています(笑)。日曜日は、弁当に入れるおかずの作り置きをする日。好きなものを詰め込んだお弁当でエネルギーチャージをし、毎日ががんばっています。

在学生インタビュー

この瞬間も
旅の途中大学生活は
チャレンジの連続。
そのさきに想定外の
未来が広がる

山田千聖 さん

農学研究科 修士課程2年生
さいたま市立浦和高等学校 出身

関東出身の私が京都大学を選んだのは、個性豊かなおもしろい人と出会えそうだから。一人暮らしへの憧れもありました。京大に抱いていたイメージは、いわゆる「天才肌」の人がたくさんいるのだろうということ。しかし、入学後に友人と接するなかで気づいたのは、一見「天才肌」に見える人であっても、その裏側にコツコツと積み重ねた努力があ

ることです。勉強量の違いに衝撃を受けて、私も努力しなければと奮い立ちました。

興味があればなんでも挑戦

新しいことへのチャレンジは楽しめるタイプです。経験した課外活動は数えきれません。農業体験のサークルのほか、アルバイトも塾講師や接客業、寺社の受付など、興味

の赴くままに経験しました。

物事への向き合い方を変えてくれたのは、ジェンダーについて考える団体に入ったこと。対話をとおして、女性をふくむマイノリティの経験を共有していると、周囲の理解があり、経済的な心配が少ない自分の環境は、恵まれているのだと気づいたのです。

この団体では、パートナー間の価値観をす

り合わせるためのウェブサービスを考案し、サービス提供までこぎつけました。協力者にヒアリングして、ニーズを把握しながらサービスの質を高めたのですが、提供後に直面したのは「お金を出してサービスを利用する」側、消費者目線でのシビアさ。課金ユーザーが思うように伸びず、サービスは撤退となりました。挑戦は「失敗」に終わりましたが、サービスを生み出す楽しさを知る経験でした。

研究に没頭できる
最後の1年を悔いなく

ジェンダー団体での活動や、スタートアップ企業を支援するベンチャーキャピタルでのアルバイトなどの経験をへて、研究職以外の進路への興味生まれ、研究職以外の職種で就職活動をしています。「研究したりない!」と進学した大学院ですが、研究に没頭するのはこの1年が最後になるはず。成果を出して、悔いなく区切りをつけたいです。

研究対象はカブリダニです。研究職には進まないと思った直後は、モチベーションの維持に苦労しましたが、ふたたび研究の魅力に気づかせてくれたのは小さなダニの生態のおもしろさでした。

ダニという布団にいるダニや血を吸うダニが思い浮かびますが、私が研究しているカブリダニはいろいろな害虫を食べてく

れる「いいダニ」。このダニをうまく活用すれば、人間の暮らしに役だつ存在に変わります。たとえば、化学農薬の代わりに農地に散布すれば、農作物に悪影響をもたらす害虫を駆除する「生物農薬」となるのです。小さなダニがもつ大きな可能性に魅了され、私たちの研究室では観察や実験をとおしてダニの生態を解明しようと向き合っています。

めざす姿に出会う旅の途中

受験勉強のときは、京都大学の偏差値の高さに気後れし、「私とは縁のない大学だ」とあきらめかけていました。でも、いざ試験問題を見てみると、「あんがい解ける問題があるぞ」と気づき、力が入りました。京都大学に惹かれるものがあるのなら、あきらめず、まずはスタートラインに目をこらしてほしい。

かくいう私も、ふたたび新しいスタートラインに立っています。将来、どんな自分になりたいのか、めざす姿はまだあいまい。たくさんの人と会って話を聞きながら、将来像の輪郭をすこしずつ描いている最中です。これまでの分岐点では、ワクワクするかどうか指針でした。このさきの人生のどこにワクワクが眠っているのか、道を絞らず多方向に目を配ってワクワクを探しています。挑戦のさきには想像以上の出会いが広がっていると信じています。



上/2022年の12月にニュージーランドで行われた国際ダニ学会に参加
下/研究対象のダニ(スワルスキーカブリダニ)。体長は0.3mm

▶ 京都のすごし方

京都の街はコンパクトで、自転車があればどこにでも行けるのが魅力。お気に入りは熊野神社近くにあるジャズ喫茶「ジャズスポット ヤマトヤ」。毎週といってよいほど通っています。クラシカルな店内でゆったりとすごせることがお気に入り。

COLUMN



Recommend

わたしの味方、わたしの見方



富田一葉さん



『はじめての哲学的思考』

苦野一徳 著
(筑摩書房)

苦野先生の本とはじめて出会ったのは、高校の探究の時間でした。背伸びをしない言葉でその〈本質〉を伝えてくれる文章にはまり、いまでも読み続けています。哲学と聞くとむずかしそうなイメージがありますが、この本はそもそもの哲学的な考え方について説明してくれます。哲学や教育の分野にとどまらず、実生活の中で〈考える〉際に一助となる本だと思います。



山田千聖さん



『息吹』

テッド・チャン 著、大森 望 訳
(早川書房)

傑作ぞろいのSF短編集です。SFというとディストピアを想像する方もいるかもしれませんが、本書は科学に向き合う人たちの純粋な気持ちが描かれているように思います。どんな時代でも、どんな世界でも、我々を前進させるのは知識への欲求、飽くなき好奇心であると思わせてくれる一冊です。「なんのためにこんなに勉強しているんだ」と目的を見失ってしまったら、気分転換に読んでみてください。



道場月音さん

『パン屋再襲撃』『剣客商売』『鬼平犯科帳』

村上春樹 著 (文藝春秋)
池波正太郎 著 (新潮社)

学生時代、村上春樹さんの『パン屋再襲撃』(短編集)のちょっと〈ダメ〉な主人公たちがとても好きで、いつも鞆の中に入れていました。池波正太郎さんの『剣客商売』(新潮社)、『鬼平犯科帳』(文藝春秋)の粋な登場人物にも魅了されました。実用書・専門書など〈役立つ本〉は必要なときにいつでも読めますが、物語がすっと心に入ってくるにはタイミングが重要で、若く感受性豊かなときにこそ、心友のように感じられる主人公に出会える気がします。



井貫恵利子先生



『生きて、語り伝える』

G・ガルシア＝マルケス 著、旦 敬介 訳(新潮社)

『百年の孤独』で有名なガルシア＝マルケスですが、あえてこれをおすすめします。タイトルから想像されるように自伝的要素の強い小説です。私は小さいころ本の虫で小説家に憧れていて、「ひょっとしたら作家の秘密が……」などという下心で手に取ったところ、自分の境遇とはあまりに違う波乱に満ちた世界とその人生にすっかり魅せられてはまってしまいました。分厚い本ですが内容はまったく重くないので、だまされたと思ってぜひ手に取ってみてください。



成木 恵先生

『The King's Speech』

トム・フーパー 監督
(邦題『英国王のスピーチ』)

はからずも英国王になってしまったジョージ6世(エリザベス2世の父)。吃音に悩み、さまざまな困難にもがき苦しみながらも、妻エリザベスや言語聴覚士ライオネル・ローグら周囲の力を借りながら克服し、国民に愛される王になるまでを描く実話にもとづく作品。第二次世界大戦中、歴史を動かした有名な演説の裏には、本人の弛みない努力と、家族や友人の大きな支えがあったことがわかります。諦めなくなる気持ちに向き合い、一歩踏み出すことの大切さを教えてくれます。



井上恵美子先生

『世界で一番美しい深宇宙図鑑』

ホヴァート・スプリング 著、生田ちさと 監修、武井摩利 訳(創元社)



宇宙にある様々な天体について、想像図だけでなく、実際の望遠鏡を使って撮影された写真も数多く掲載されています。遠い宇宙の星々が、最先端の科学の力でここまで鮮明にとらえることができることに、きっとびっくりすると思います。ただただ天体の美しさに見惚れるのもよし、解説文を読んで、少し宇宙の謎について考えてみるのもよし、宇宙について詳しい人もそうでない人も、宇宙の美しさをたっぷり味わうことのできる一冊です。



堀内怜実さん



『あさきゆめみし』

大和和紀 著 (講談社)

古典が苦手な人にこそ読んでほしい、源氏物語の漫画化作品。原作に忠実に描かれながらも、漫画として魅せる工夫がされています。源氏物語の登場人物の価値観は現代人には受け入れにくい部分もありますが、心情や情景の描写がとても丁寧なので、物語にきちんと入り込めます。

『こどものおもちゃ』

小花美穂 著 (集英社)

人気子役の主人公・紗南と、問題児・羽山の友情や恋心を描いた、笑いあり涙ありキュンありの名作漫画。1990年代の作品ですが、現代にも通じるさまざまな社会問題も絡んでおり、私が多様な家族の形について興味をもったきっかけの作品でもあります。紗南の明るさと強さに勇気をもらえます。

立ち止まったとき、いつか読んだ・観た作品にふと背中を押されることがあります。今号に登場いただいた方がたに、高校生のみなさんに手に取ってほしい作品をうかがいました

